

主要事務事業の成果に関する説明書

1 学務課関係

(平成30年度)

* 評価の基準
A：目標を達成できている。
B：概ね達成できているが、改善を要する。
C：次年度以降の課題を要する。

		重点施策	具体的施策	主要事務事業	事業の概要と成果	教育委員会評価	
幼児教育・保育の支援	幼稚園・保育園と小学校の円滑な接続	(1) 幼稚園・保育園・認定子ども園・小学校の連携	(1) 幼稚園・保育園・認定子ども園・小学校の連携	①幼稚園・保育園・認定子ども園・小学校職員研修会	(事業の概要) 幼稚園、保育園、認定子ども園と小学校との連携を一層強化し、就学にあたっての幼保小連携事業を今年度も引き続き展開し、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を図った。 (成果) ①幼稚園、保育園、認定子ども園と小学校との連携を一層強化を図るための研修会を実施出来なかった。 ②幼稚園、保育園、認定子ども園と小学校との情報共有のための会議の開催 ・小学校入学前の情報共有のため、幼稚園、保育園、認定子ども園と小学校の先生との間で情報共有の会議を必要な都度開催した。 ・幼稚園、保育園、認定子ども園の先生が、各小学校に赴き、新1年生の状況確認を実施した。	平成30年度においては、幼稚園、保育園、認定子ども園と小学校との連携を一層強化するための研修会を実施することが出来なかったが、平成31年度からは「矢巾町幼保小連携推進研修会」として継続的に取り組むことを教務主任研修会の際に各小学校へ周知した。	B
	私立幼稚園への補助	(2) 私立幼稚園への補助	(2) 私立幼稚園への運営適正化	①私立幼稚園就園奨励事業	(事業の概要) 人格形成の基礎を培う大切な幼児期の教育の一つである、幼稚園の保育料に関する保護者の経済的負担を軽減する施策を引き続き行った。 (成果) ①私立幼稚園の設置者に対し、基準に基づき補助金を交付した。 ・私立幼稚園就園奨励費補助金 4施設分(51名) 7,299,500円 ・私立幼稚園整備事業費及び運営補助金 該当施設がなかった。	幼児期は一生のうちでもっとも成長のめざましい時期であり、また感情や情緒が発達する時期でもある。そのような大切な幼児期の教育振興に資するため、各私立幼稚園に在園する矢巾町に住所を有する園児の保護者に対して保育料等の減免を行うのに要する経費として、各園に対して補助を行った。	A
学校教育の充実	の知推・進徳・体のバランスを重視した教育	(1) 豊かな心の育成	(1) 道徳教育の充実	①道徳教育研修会	(事業の概要) 生命を尊ぶとともに、してはならないこととはしないといった規範意識などの確立の根底となる道徳教育の充実を図った。また、各学校の道徳教育全体計画の中に道徳教育推進教師を中心とした組織や役割を明確にした推進体制を確立して道徳教育に取り組んだ。 (成果) ①道徳教育全体計画に学校内推進体制を含めている学校の割合 目標値(100%) → 実績値(100%) ②「特別の教科道徳」の実施に向けた取組として年1回以上の校内研を実施している学校の割合 目標値(小・中学校100%) → 実績値(小・中学校100%) ③人の気持ちがわかる人間になりたいと思っている児童生徒の割合 目標値(82%) → 実績値(96%)	各校において道徳推進教師を軸とした教育全体で行う道徳教育の体制づくりに意識的に取組んだ。徳田小学校を会場に町道徳教育研修会を開催し、授業研究会を通して小中連携の視点から意見を交流し合い、系統的な取組について協議を行った。中学校の教科化にあたり、内容項目に沿った年間計画及び別葉の見直し、評価等に関する校内の研修体制の充実を図る必要がある。	B

		重点施策	具体的施策	主要事務事業	事業の概要と成果	教育委員会評価	
学校教育の充実	知・徳・体のバランスを重視した教育の推進	(1) 豊かな心の育成	(2) 生徒指導の充実	①教育振興総務事業 (町学校警察連絡協議会) ②QUの活用事業	(事業の概要) 学校において、「社会で許されないことは学校でも許されない」という毅然とした姿勢で児童生徒一人ひとりに寄り添った指導を組織的に推進した。日常的な指導の中で、教師と児童生徒との信頼関係を築き、すべての教育活動を通じて規範意識や社会性を育むきめ細かな指導を行うとともに、家庭や地域社会、関係機関などの理解と協力を得て、一体となって児童生徒の健全育成に努めた。 (成果) ①教育課程の中に、ボランティア活動を位置付けている学校の割合 目標値 (100%) → 実績値 (100%) ②「人が困っているときは、進んで助ける」と答えた児童生徒割合 目標値 (88%) → 実績値 (96%)	行政の各部所や警察等の機関と情報を共有しながら健全育成に努めるとともに、巡回指導を通して地域の活動の様子を見まわりながら、地域と学校の連携の大切さについて認識を深めることができた。なお、今後も関係機関と密な連携を図りたい。 小学校高学年及び中学校におけるQUの活用と講師を招いた研修会により、生徒指導の充実を図ることができた。	A
			(3) 教育相談機能の充実	①学校適応指導事業 (こころの窓) ②スクールカウンセラー配置事業 (県事業) ③小・中連携推進事業	(事業の概要) 学校不適応の未然防止、早期発見・早期対応のためにスクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーを活用し、児童生徒が相談しやすい環境づくりをした。また、学級経営の充実を図り、児童生徒の理解を進め、好ましい人間関係作りなどを行うとともに、小中連携推進会議を複数回行い連携を強化し、特に小1プロブレム、中1ギャップの解消に努めた。 (成果) ①不登校児童生徒数 (小: 2人・中: 14人) → 実績値 (小: 4人・中: 21人) こころの窓への通級者 (小学校1人、中学校6人) ②小・中連携推進会議の開催 実績 (年4回開催)	スクールカウンセラー (SC) を小中4校に配置。他2校の小学校へは中学校の配置型SCを数回派遣し、すべての学校への支援体制が整えられたことにより、児童生徒の欠席日数の減少や全欠児童生徒数の減少など、内容的に不登校の改善事例が増えた。出現率は小学校で若干増えたものの、中学校では減少した。今後は、スクールソーシャルワーカー (SSW) の活用、生徒への対応及びその保護者との対応や人間関係作りも視野に入れ対応したい。 小中連携会議は年4回実施し、児童生徒の情報交換を通して指導の充実が図られた。	A
		(2) 確かな学力の保障	(1) 確かな学力の保障	①教育研究所運営事業 (CRT・家庭学習) ②学校公開事業 ③茨波郡教育研究会研修会	(事業の概要) 基礎・基本の定着を図るとともに、それまでに学んだことを活用して課題を解決する力や自ら進んで学習に取り組む態度を育んだ。また、明確な学習課題の提示と児童生徒の定着状況を把握する場を設定した授業の展開など授業改善に努め、教員相互の授業参観や、指導主事等の訪問指導により校内研修を充実し、教員の指導力の向上に努めた。 (成果) ①学習定着度状況調査における県平均に対する町平均の比率 目標値 (小5: 104.0%、中2: 103.0%) 実績値 (小5: 101.0%、中2: 99.0%) ②学習定着度状況調査について目標を設定し計画的に取り組んでいる学校の割合 目標値 (100%) → 実績値 (100%) ③「いわての授業づくり3つの視点」により、改善に計画的に取り組んでいる学校の割合 目標値 (100%) → 実績値 (100%)	各校では3つの視点を基にした授業づくりと連動した家庭学習等の取り組みにより、目標値を設定して、学習状況調査の把握 (校内研) や相互の授業力向上を図りながら取り組んだ。県の学習定着度状況調査及び全国学調の小学校総計 (国語、算数) において多くの項目で県平均並みという結果となった。県全体としての課題もあるが、小中学校それぞれにおいて課題を共有しながら小中の連携を通してさらに一層の授業改善を図る必要がある。	B
			(2) わかる授業のための言語活動の充実	①指導主事等による学校訪問 ②授業力向上のための総合訪問	(事業の概要) すべての教科において、授業のなかに言語活動を取り入れる様々な工夫をし、児童生徒が自分の考えを深め、他者とのコミュニケーションを行うために必要な言語活動力を育てた。 (成果) ①指導主事等校外からの助言者を招いた校内研を年複数回以上行った学校の割合 目標値 (100%) → 実績値 (100%) ②学習定着度状況調査において「授業の内容がわかる」と答えた児童生徒の割合 目標値 (小83% 中73%) → 実績値 (小73% 中87%)	校内の授業研究会のみならず、各種講座も含め指導主事等を招聘し、年2回以上の校内研をすべての学校で実施し、特色ある教育活動の実現に向けた取り組みができた。 町制定の研究校を重点に授業力向上を目的とした総合訪問を実施し、いわて授業づくり3つの視点を軸に教員の資質向上に努めた。	A

		重点施策	具体的施策	主要事務事業	事業の概要と成果	教育委員会評価	
学校教育の充実	知・徳・体のバランスを重視した教育の推進	(2) 確かな学力の保障	(3) 学習支援の充実	①中学校基礎学力向上事業 (大学生の学習サポーター派遣事業)	(事業の概要) 大学生の学習サポーターを各中学校に派遣し、特色を生かしながら基礎的・基本的な知識・技術の習得、思考力・判断力・表現力の育成、主体的態度の育成が図られるよう、各校の実情に応じた教育活動を支援した。 (成果) ①大学生の学習サポーター派遣事業を活用している学校の割合 目標値 (100%) → 実績値 (100%) ②大学生の学習サポーター派遣人数 目標値 (延べ50人) → 実績値 (延べ36人)	各中学校において、長期休業中や放課後を利用し、大学生の学習サポートを積極的に活用するなど、生徒が主体的に学ぶ環境づくりに貢献した。 生徒のニーズに対応してくれるため、それぞれの習熟度に合わせて適切な指導を受けることができた。なお、学生の確保については年々難しくなっている。	A
			(4) キャリア教育の推進	①中学校における職場体験事業	(事業の概要) 働くことの意義や尊さを理解し、明確な目的意識をもって人生を切り開くことができる力を育んだ。また、社会への参画を目指し、児童生徒が主体的に人生計画を立て、進路選択をし、決定できる力を身に付け、将来の社会人・職業人として自立して生きるための力を育成した。 (成果) ①2日以上の職場体験を実施した学校の割合 目標値 (100%) → 実績値 (100%)	職場体験はもとより、学校の教育計画にも各教科等での指導目標を記載し、将来の社会人・職業人として自立して生きるための力の育成に努めた。 1月に小中学校の児童生徒を交えた子ども議会、子ども議会を通して、社会に参画する意識を育てることができた。上手に教育課程に位置付けることで更なる効果を目指したい。	A
			(5) 英語教育の推進	①英語力向上事業・中学校教育振興事業 ②町小学校外国語活動指導研修会 ③町国際交流事業	(事業の概要) 小学校の外国語活動の授業及び中学校の英語科の授業に、英語指導助手を配置するとともに、小学校、中学校の英語担当教員による小中連携の視点からの小学校外国語活動研修会を実施した。なお、町国際交流協会主催、町教育委員会共催事業のフリモントとの交流事業の充実に向けて取り組んだ。 (成果) ①中学校英語指導助手及び小学校英語活動支援員の配置 (各1名) ②町小学校外国語活動指導研修会の実施 ③フリモント派遣への支援	小中学校において、指導助手及び今年度県からの外国語加配講師の活用を図り英語教育の推進を図った。また、指導主事を招聘し、中学校英語と関連した小学校外国語研修会を実施した。小学校英語科実施にむけ、地域のみならず国際感覚のある人格形成を目指した教育の根本を考えさせられる機会となった。 フリモント交流事業において、英語指導助手の活用を図り、生徒・教員と共に発表や交流にかかわる事前研修を行った。	A
		(3) 健やかな体の育成	(1) 学校体育・健康教育の充実	①指導主事等による学校訪問指導 ②小中学校児童生徒保健管理事業 (健康診断等、小4・中1生活習慣病健診)	(事業の概要) 運動能力、体力低下の課題解決に向け、教員の体育の授業力向上に努めるとともに、地域スポーツ指導者や大学生の活用により、学校体育の充実に努めた。 また、児童生徒の心身の健康保持増進のため、望ましい生活習慣の推進に取り組むとともに、各種健診を行い、事後指導の充実に努めた。 (成果) ①児童の肥満防止に取り組んでいる小学校の割合 目標値 (100%) → 実績値 (100%) ②学校訪問指導に取り組む学校の割合 目標値 (100%) → 実績値 (100%) ③児童の「定期健康診断」の肥満度が正常の範囲内と判定される児童の割合 目標値 (90%) → 実績値 (90%)	各校において経年の課題を体力向上プログラムに盛り込み、指導主事を交えて校内で運動量の確保や登下校時の送り迎えの工夫などを協議し、学校の取組の充実を図った。 小中学校において「定期健康診断」の結果をもとに、養護教諭等が児童生徒への健康指導を行った。また、今後は改善が必要な生徒については家庭への対応も考慮したい。	A

		重点施策	具体的施策	主要事務事業	事業の概要と成果	教育委員会評価	
学校教育の充実	知・徳・体のバランスを重視した教育の推進	(3) 健やかな体の育成	(2) 体力向上や運動に親しむ環境づくり	①小学校教育振興事業 (小学校体育連盟への補助) ②小中学校生徒各種大会参加補助事業 ③体力向上事業(大学生を小学校に派遣)	(事業の概要) 児童生徒がスポーツの楽しさや喜びを味わえるような、運動に親しむ環境づくりに努めた。また、町内小学校が参加する各種大会を開催し、スポーツに興味と関心のある児童生徒が、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、スポーツの楽しさや喜びを味わい、体力の向上や健康の増進を図った。 (成果) ①小学校体力・運動能力調査の総合評価A・B・C段階の児童の割合 目標値(小5・6で80%)→実績値(小5・6で75.7%) ②運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合 目標値(87.5%)→実績値(77.0%) ③小中学校の各種大会への補助金の交付 ・煙山小学校 県大会 1種目 41,000円 東北大会 1種目 758,000円 ・矢巾中学校 県大会 12種目 1,860,000円 東北大会 5種目 1,387,000円 全国大会 2種目 521,000円 ・矢巾北中学校 県大会 13種目 1,477,000円 東北大会 4種目 2,341,000円 全国大会 2種目 3,106,000円	運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合が減少、肥満傾向の児童生徒が増加しており、今後は生徒の体力向上とともに生活習慣の改善を目指した取組の工夫が必要である。 指導主事による出前講座や小学校体力向上プログラムにより指導主事や大学生が各小学校を訪問指導を行った。 また、小中学校生徒各種大会参加補助事業では、小中学生の体育・文化活動を奨励し、団結力・競技力の向上を図るとともに、保護者の負担を軽減した。	A
			(3) 児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操を豊かにする環境づくり	①児童館運営事業 ②児童のびのび教室事業	(事業の概要) 児童に健全な遊びを提供し、心身の健康を増進し情操豊かな児童の育成を図る。 (成果) ①児童を取り巻く環境は少子化・高齢化の進行、夫婦共働き一般化、地域や家庭における子育て機能の低下などにより、いじめや虐待の事案も多くみられ、地域の児童を健やかに育てる拠点施設としての役割を果たした。 ②今年度から矢巾東児童館で行った、児童のびのび教室において「放課後子ども総合プラン」を導入し、高学年の児童が今まで以上に充実した活動に取り組んだ。	各児童館において創意工夫を凝らした活動を行った。 特に平成30年度から始めた児童のびのび教室において、「放課後子ども総合プラン」を導入し、放課後や長期休業中に概ね月2回、各種事業に取り組み、年間を通してサッカーや卓球など各種スポーツ教室を実施し、チームワークの大切さを学び、個々の体力向上につなげることができた。	A
		(4) 家庭・地域と協働した学校経営の推進	(1) 目標達成型の学校経営の推進	①管理職層(校長・副校長・主幹教諭及び教務主任)を対象とした会議 ②教育委員会学校訪問	(事業の概要) 学校は全教職員の参加のもとにそれぞれの学校経営計画を策定し、設定した目標や具体的な取組等の達成状況や進め方などについて学校評価(自己評価)を行うとともに、児童生徒による評価、保護者や学校評議員による学校関係者評価も併せて行い、その結果と今後の改善方策等について、保護者や地域等に対して広く公表、報告するように取り組んだ。 (成果) ①学校評価を踏まえて学校運営の改善に取り組んでいる学校の割合 目標値(100%)→実績値(100%) ②校長会議の開催 →12回開催 ③副校長会議、教務主任連絡会議の開催 →副校長会議1回、教務主任連絡会議2回開催 ④教育委員会の学校訪問の実施 →1回開催(煙山小学校、矢巾中学校、学校給食共同調理場) ⑤学校評価(学校関係者評価)を実施している学校の割合 目標値(100%)→実績値(100%)	設定した目標に対して学校関係者評価を行い、各校においてPTA行事や広報等で公表し意見を求めるなど、今後の改善策について積極的な取組が見られた。 校長会議を毎月開催し、学校運営の改善について情報共有しながら積極的に推進した。 副校長研修や教務主任等の研修開催により、横軸連携を深めながら、各校において組織的・実質的な取組が図られた。	A

		重点施策	具体的施策	主要事務事業	事業の概要と成果	教育委員会評価	
学校教育の充実	知・徳・体のバランスを重視した教育の推進	(4) 家庭・地域と協働した学校経営の推進	(2) 学校と家庭・地域との協働の推進	①学校教育活動の情報発信	(事業の概要) 学校は、学校ホームページ、学校通信、学年通信、学級通信、PTA広報等により、学校の教育活動について家庭や地域に発信するとともに、保護者や地域住民の意見や要望を学校経営に的確に反映するなど、家庭や地域と連携協力し、教育に対する期待に応えた。同時に、保護者や地域住民には、学校とともに地域の教育に責任を負うとの認識のもと、学校経営への積極的な協力をお願いした。 (成果) ①学校評価結果等を保護者・地域等に公表、報告している学校の割合 目標値 (100%) → 実績値 (100%) ②地域人材等の学校外の教育資源を活用している学校の割合 目標値 (小: 100%・中: 100%) → 実績値 (小: 100%・中: 100%) ③教育振興運動実践区で学力向上や読書活動に関する活動に取り組んでいる割合 目標値 (100%) → 実績値 (100%) ④学校ホームページの適時・適切な更新 (年間6回以上) をしている学校の割合 目標値 (100%) → 実績値 (83.3%)	学校の教育活動や成果について家庭や地域に積極的に発信 (学校通信、学年通信、学級通信、PTA広報等) することができた。なお、各学校のホームページについては、学校により投稿頻度に差があることから、更新が少ない学校については積極的な活用を促す必要がある。 学校全体で伝統芸能に取り組める環境づくりと、取組みを推進するよう今後も工夫を重ねる。 今後とも、可能な限り学校の活動などを地域に開放できるようにすることや、さらに学校と地域が交流できるよう対応の工夫を行いたい。	A
		(4) 家庭・地域と協働した学校経営の推進	(3) いわての復興教育の推進	①いわての復興教育学校支援事業	(事業の概要) 東日本大震災津波の体験を踏まえ、災害の知識や身の守り方、復興における自分自身の役割、地域とのかかわり方など、三つの教育的価値と21の具体的項目を総合的に学ぶ復興教育副読本を活用し、復興教育に取り組んだ。 学校と地域が共に一体となって、町の未来を考える「矢巾町子ども議会」や各課との連携による「矢巾町ヒューマンセミナー」を開催し、復興・発展を支える人材を育成した。 (成果) ①「いわての復興教育」を学校経営計画等に位置付けて取り組んでいる学校の割合 目標値 (100%) → 実績値 (100%) ②防災教育「そなえる」の授業実践に取り組んだ学校の割合 (100%) 目標値 (100%) → 実績値 (100%) ③子ども議会 (子ども議員会議) の開催 → 1月に開催 ④矢巾町ヒューマンセミナーの開催 → 全校実施	いわての復興教育を学校教育計画に位置付けるとともに、具体的な21項目を各校の特色に合わせて選定して取り組んだ。副読本の活用については課題である。また、沿岸地域に出向いて交流等を行う小中学校も複数校あり、語り継いでいく意識の醸成につながった。	B
		(5) いじめ問題の早期対応	(1) いじめの早期実態把握 (2) 未然防止教育の実施	①各学校における全児童生徒を対象としたいじめの実態把握に関するアンケート調査 ②情報モラル教育の実施	(事業の概要) 学校において児童生徒の生命・身体を脅かす出来事が起こらないように、特にもいじめ・体罰等の課題への対応を徹底し、児童生徒を「加害者にも被害者にも、傍観者にもしない」教育に努めます。 (成果) ①いじめ防止対策推進法第13条に基づき、学校におけるいじめの防止等のための対策に関する基本的な方針を定めている学校の割合 (100%) ②いじめの実態把握に関する児童生徒に対する調査を年間複数回実施している学校の割合 (100%) ③情報モラル教育を実施している学校の割合 (100%) ④いじめ問題対策連絡協議会の開催 (年2回) ⑤心の授業・心の授業研修会の実施 (教職員対象 1回実施・生徒対象に各中学校 1回実施) ⑥いじめの相談にあたる窓口の設置 (教育相談の実績 48件)	町や各校のいじめ防止基本方針の見直しを行い、各種用途に合わせた複数回のアンケートの実施や教育相談を通して、いじめの早期発見、早期対応に努めた。今後は蓄積されたデータをもとに取組の評価等に生かしていく必要がある。また、中学校においては、未然防止の観点から、専門医師による「心の授業研修会」および「心の授業」を行い、教員及び児童生徒への心の支援を充実させた。	A

		重点施策	具体的施策	主要事務事業	事業の概要と成果	教育委員会評価	
学校教育の充実	教育環境の充実	(1) 児童生徒を支える教育環境の充実	(1) 安全に関する指導の充実 (2) 不適切指導防止の点検	①各学校における毎月の安全の日の活動 ②地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業 ③平成25年度から実施している町としての「ゼロ（教員の不適切な指導）運動」の継続	(事業の概要) 学校内のみでなく通学路を含め、学校は児童生徒が安心して学習を行うことが求められる場所であり、学校においてその安全な環境を整備し、事件・事故を防止するための取組を行った。 また、地域全体で児童生徒の安全を見守ることが必要であるので、各地域における児童生徒の見守り活動に対する支援を行った。 (成果) ①毎月安全の日を設定し、施設設備の点検を行っている学校の割合 目標値（100%） → 実績値（100%） ②スクールガード見守り活動時における交通事故発生件数 目標値（ 0件） → 実績値（ 1件） スクールガード研修会及び情報交換会 目標値（ 2回） → 実績値（ 2回） ③教員の不適切な指導（体罰・セクハラ・不適切な言動）について毎月点検している学校の割合 目標値（100%） → 実績値（100%）	学校安全ボランティア（スクールガード）152名を委嘱し、学区内の通学指導、巡回指導、見守りを行い、安全な通学の確保が保たれた。 また、学校施設の点検も定期的に実施されており、学校施設の安全及び維持管理が図られた。	A
		(3) 防災教育の充実	①各学校における避難訓練及び防災訓練（引き渡し訓練等）の実施 ②小中学校教育施設整備事業（学校連絡網メール配信事業）	(事業の概要) 児童生徒に、自然災害等の危険に際して、自らの命を守り抜くため主体的に行動する態度を育成し、安全で安心な社会づくりに貢献する意識を育てた。 また、学校では、特別活動など、学校教育活動全体を通じて、防災教育を含む安全教育を行った。 (成果) ①危機管理マニュアルを整備、更新している学校の割合 目標値（100%） → 実績値（100%） ②火事、地震、水害、不審者侵入等を想定した避難訓練を、年に複数回以上実施している学校の割合 目標値（100%） → 実績値（100%） ③学校連絡網メールを有効活用している学校の割合 目標値（100%） → 実績値（100%）	危機管理マニュアルについては、学校において、地域、児童生徒の実態に応じて、適宜見直しをかけることで実践的なマニュアルとなった。また、年度当初に町教委への提出を求め、内容について確認、指導することで、多面的な見方に対処法を確認した。	A	
		(2) 学校を支える教育環境の充実	(1) 教育研究所事業の充実	①調査研究事業 ②研修事業 ③編集発行事業 ④教育相談事業 ⑤適応教室の充実 ⑥幼児ことばの指導	(事業の概要) 児童生徒に確かな学力を育むため、教職員の研修・研究事業や調査事業並びに広報等の発行を行った。 また、幼児児童生徒の教育に関わる不安や悩みについて教育相談活動を通して支援し、不登校による不安定な状況を示す児童生徒には支援活動を行い、学校復帰を目指すとともに、言葉の課題を持つ幼児には、課題を軽減し健やかな生活を営めるよう支援を行うなど、学校教育を支える支援活動を、教育研究所の活動として行った。 (成果) ①家庭学習強化週間の設定（年2回）、所報「教育やばば」を年3回発行した。 ②町教育研究発表会参加者満足度98%（目標値95%）を達成した。 ③平成32年度完全実施に向けた新学習指導要領に準拠した小学校社会科副読本の編集作業を進めた。 ④教育相談員の活用を図った。個別カード点検訪問回数110回、いじめ対策推進会議47回、相談件数49回（保護者46回、児童生徒3回）。 ⑤通級者について月2回以上学校と「こころの窓」と情報交換した。また、対象児童生徒の保護者との面談を推進した。 ⑥町内の全保育園・こども園の幼児言葉の観察を実施し、幼児おはなし教室への通級指導を行った。（観察会9園、通級園児25名、教育相談5件、相談会28名参加、通級延べ人数499人、教室開催166回）	①目標に対して100%の実施 ②町教育研究発表会参加者に対してアンケート調査を実施したところ、目標値95%に対し満足度98%を達成できた。 ③3年に一度の社会科副読本の編集作業を進め、内容の刷新を図った作業を進めている。 ④教育相談員の各活動の目標に対し、全てに対し目標値を上回る活動を行った。 ⑤不登校の児童生徒と学校をつなぐため、きめ細かな対応を図った。 ⑥幼児ことばの教室はもとより、町内の全保育園・認定こども園からの要請に応じて積極的に円を訪問し、通級や就学に向けたとおり組を推進した。	A

		重点施策	具体的施策	主要事務事業	事業の概要と成果	教育委員会評価	
学校教育の充実	教育環境の充実	(2) 学校を支える教育環境の充実	(2) 保護者に対する経済的支援の充実	①小学生遠距離通学費補助事業 ②小中学校要保護・準要保護就学援助事業 ③小中学校特別支援教育就学奨励事業 ④奨学金貸付事業	(事業の概要) 義務教育段階では、授業料や教科書が無償となっていますが、それ以外にも学校生活を送る上では様々な経費がかかることから、このような費用を負担することが困難な児童生徒の保護者に経済的支援を引き続き行った。以前より要望のあった入学準備金の支給を、平成30年度分から開始しており、今後も引き続き実施した。さらに、上級学校へ進学する生徒に対して奨学金の貸付事業を行った。 (成果) ①通学距離が4km以上でバス通学をした児童の保護者に対し、定期券等の購入額の1/2を補助した。 補助額 上半期 486,090円 (52名) 下半期 553,766円 (51名) ②申請に基づき認定した要保護児童生徒の保護者に対し、学用品費及び医療費を補助した。 ③申請に基づき認定した準要保護児童生徒の保護者に対し、給食費、医療費、学用品費等を補助した。 ④特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、給食費、学用品費等を補助した。 ⑤基準により選考された経済的理由により修学が困難な生徒に対し、奨学金の貸付けを行った。(審査会の開催回数を年2回行った。) 平成30年度採用奨学生 5名 (大学3名、高校2名)	経済的理由によって就学困難な児童生徒の保護者に対して修学旅行費、医療費の援助並びに学用品等を援助することにより、義務教育の円滑な実施が図られた。 遠距離通学費の補助及び奨学金貸付事業についても行い、保護者及び生徒の経済的支援を行った。	A
	安全な学校施設の管理と運営	(1) 学校施設・設備の充実	(1) 学校施設の点検	①小中学校保守管理事業	(事業の概要) 毎月定例の教員による目視の学校施設点検のほか、施設設備点検として、消防設備保守業務、電気保安業務、受水槽・高架水槽保守点検、空調装置保守点検、遊具点検等を業者に委託し、定期的に実施した。 (成果) ・各種施設管理業務委託の実施	定期点検、保守管理業務委託を行うことにより、学校施設の安全及び維持管理を図った。 今後は、施設設備の経年劣化や老朽化などにより、施設維持管理の比重が大きくなることから、一層の計画的管理及び点検、財政的負担の計画等に力を入れる必要がある。	A
			(2) 学校施設の維持・補修	①小中学校維持補修事業	(事業の概要) 児童生徒が健康で快適に学校生活が送れるよう、施設の老朽化に伴う危険箇所の改修工事を実施した。 また、交付金を活用したトイレ洋式化を中心とした改修工事を実施し、衛生環境を整えた。 (成果) ◆修繕及び改修工事等の実施 ・交付金を活用した学校トイレ環境改善工事 (徳田・煙山・不動小学校、矢巾北中学校) ・煙山小放送設備補修工事 ・矢巾東小特別教室間仕切り設置工事 ・防火シャッター等設備補修工事 (徳田・煙山小学校) ・矢巾北中学校体育館屋根補修工事 ・矢巾中学校・矢巾北中学校グラウンド表面処理工事	平成30年度に予定していた工事は行うことができたが、度々発生する突発的な対応については予算の関係もあり、すべて対応することができなかった。 今後さらに施設の老朽化が進むと思われるため、施設の安全性、予算の執行状況、学校側の要望、状況を把握しながら補修工事等を実施していく。	B

		重点施策	具体的施策	主要事務事業	事業の概要と成果	教育委員会評価	
学校教育の充実	安全な学校施設の管理と運営	(1) 学校施設・設備の充実	(3) 教育設備の充実	①小中学校教育振興事業 (教材備品、図書)	(事業の概要) 産業教育振興法、理科教育振興法、学校図書館法等を中心に、学校の教育設備の整備状況を勘案し、さらなる教育設備・教材及び学校図書の整備・充実を図った。 (成果) ・矢巾北中学校パソコン更新事業 ・小中学校図書の購入 ・小中学校理科備品の購入	各校における備品及び図書内容の状況を把握し、要望を取り入れながら、学校図書及び教育設備の整備を図った。 平成30年度は、矢巾北中学校パソコン更新事業を実施し、情報教育の充実を図った。	A
	適応支援・特別支援の充実		(1) 特別支援教育の充実	①総務管理事業（就学指導委員会） ②特別支援教育スキルアップ研修会 ③適応支援員並びに特別支援教育支援員等研修会 ④適応支援員並びに特別支援教育支援員配置事業 ⑤小中学校特別支援教育事業（特別支援学級、ことばの通級）	(事業の概要) 特別な支援が必要な児童生徒と特別な支援の必要のない児童生徒が、共に学ぶことができるよう（「共に学び、共に育つ教育」）学校での指導・支援体制の充実を図った。また、特別な支援を必要とする児童生徒の教育活動を支援するため、特別支援教育支援員を引き続き配置した。 ことばの通級指導については、対象児童が指導をより受けやすくするため、学校を巡回してのことばの指導も引き続き実施した。 (成果) ①作成が必要なすべての児童生徒について「個別的教育支援計画」を作成している学校の割合 目標値（100%）→ 実績値（100%） ②町費による非常勤職員（特別支援教育支援員・適応支援員）の配置継続 適応支援員（4名）、特別支援教育支援員（6名→8名）を配置 ③特別支援教育スキルアップ研修会を実施する学校の割合 目標値（100%）→ 実績値（100%） ④適応支援員、特別支援教育支援員等研修会の開催 → 8月に実施	・町の研修会として、盛岡教育事務所管内の特別支援教育エリアコーディネーターや矢巾北中学校配置のスクールカウンセラーを講師に、講義を行った。また、分会にわかれ事例に基づいた研究協議を実施し、日常の支援の在り方について理解を深めた。 ・町費による支援員を増員し、それぞれの小中学校へ配置し、特別的教育課程が必要な児童生徒への支援の充実を図った。	A
	安全安心な学校給食の提供	(1) 食育に関する指導の推進 (2) 安全・安心の取組みに向けた学校・家庭との連携推進		①栄養教諭による食に関する指導 ②食材の安全性の確認 ③食物アレルギー対応 ④給食だよりの発行による各家庭への情報提供	(事業の概要) 安全安心の地場産物の活用と郷土食・行事食等を積極的に取り入れ、食の楽しみ・豊かさなど食文化が感じられる食農教育を重視した給食の提供に努めた。 また、学校、家庭及び地域との連携を深めながら食生活に対する意識を高めるため「給食だよりのすこやか」の発行、「献立表」のホームページへの掲載、試食会の実施及び各校の食育に関する各種事業計画の策定に積極的に参画した。 アレルギー対応については、学校・家庭・調理場が綿密な連携を図り、組織として食物アレルギーを有する児童生徒に対応した。 (成果) ①学校給食における町内農産物使用の割合（55.0%） （目標値55.0%、実績値50.0%、▲5.0%未達） ②栄養教諭による食育授業を実施する学校の割合（100%） （目標値100%、実績値100%、全39回実施） ③食物アレルギーへの対応 （目標値100%、実績値100%） ④給食食材の放射性物質濃度の測定（100%） （目標値100%、実績値100%、全食197回実施） （全てにおいて放射性物質は検出されなかった。）	安全安心で質の良い町内農産物の優先的な活用を図るべく食材納入業者と更なる協議を進め、目標値には至りませんでした。その半数を確保することができた。また、食農教育を重視した郷土料理・行事食等、旬の献立を工夫することにより、栄養バランスの確保に加え、食の楽しみ・豊かさが感じられる給食の提供に努めた。 各学校に合わせた食育授業を計39回実施し、児童生徒に指導を行った。 食物アレルギーへの対応は、各学校との連携により対象児童生徒にこまめに対応した。「給食だよりのすこやか」及び町HPを活用した放射能測定結果や献立表の公表により、給食の安全性を発信するとともに、児童生徒や家庭に対し広く食育支援指導を実施した。	A

主要事務事業の成果に関する説明書

2 社会教育課関係

(平成30年度)

※評価の基準
A：目標を達成できている。
B：概ね達成できているが、改善を要する。
C：次年度以降の課題を要する。

重点施策	具体的施策	主 要 事務事業	事 業 の 概 要 と 成 果	教育委員会評価
1 青少年の健全育成	(1) 五者連携による青少年の健全育成	①家庭教育の振興	親子や家族のつながりを深める学習機会を提供し、家庭教育の振興を図った。 ・保護者とともに体験できる講座の開設：親子創作活動の実施に係る支援を行った。(詳細は1-(2)-①参照) また、教育振興運動研修会において、子供の可能性を伸ばす保護者の関わり方について理解を深めるための講演を実施した。	家庭の教育力の向上を課題と捉え、広い働きかけを意識した事業を実施した。 A
		②教育振興運動の充実	教育振興運動の充実に努め、家庭や地域の教育力の向上を図った。 ・教育振興運動による各組織の活動成果の共有 ○平成30年5月23日(水) 教振研修会を実施。公民館長(推進幹事)および推進協力員の交代により、それぞれの役割について学んだ。併せて矢巾北中の西郷校長から「子どもたちの限らない可能性」と題し講話をいただいた。 ○10月6日(土) 教振・子育て連合同研修会開催 参加者187名 ・ふれあい活動発表：こずかた保育園22名 ・私の主張：矢巾北中学校2名、矢巾中学校2名(ビデオ出演) ・高校生活発表：岩手県立不来方高等学校2年 佐藤 香佳さん(全国高等学校家庭クラブ研究発表大会入賞) ・講演：「笑顔あふれる豊かな地域を目指して」～子育て支援で地域を元気に～ 講師：紫波町古館子どもを見守る町づくり委員会 事務局長 佐々木 勉 氏 目的：子どもたちの育成や地域の活性化を図る取り組みの推進 成果：「子育てしやすい環境、子どもが活躍できる環境、子どもの想いを叶える環境、地域の人に出会える環境」それぞれの環境を整えるための過程と方法を習得。 課題：地域づくりの方法の習得(アンケート結果による) ○「教育振興運動とともに地域の未来を考える」研修会 12月16日(日)「教育振興運動とともに地域の未来を考える研修会」～みんなで支える地域づくり～開催 参加者52名 ・講師：株式会社カントリー・ラボ代表取締役 宮崎 道名氏 ※新潟でまちづくりを学び、岩手県では2002年頃から、紫波町各地の地域づくりの支援や市民参加の事業や計画策定、または県内各地の住民主体の地域づくりの人材育成に貢献している。 目的：矢巾町においても人口・世帯構成の推移を知ることや、住民自治組織を立ち上げている各地の事例の説明を聴くことにより、地域が支える地域づくりを目指す糸口とする。	合同研修会は毎回、幼児・中学生・高校生という各々の成長過程での努力が感じられ好評を得ている研修会となっているが、昨年度に引き続き中学生の発表がビデオ出演となったことから日程調整を望む声が多く、次年度以降の課題となっている。また、講演は古館地区という身近な地域の講師ということもあり、子供たちが育つ「地域」という環境について考えるきっかけとできた。 この研修会アンケートから「地域づくりに関心があるが地域との関わり方が分からない」との意見を受け、更に地域づくりをテーマとした研修会を実施。参加者の「参考になった」との回答が87%となった。
1 青少年の健全育成	(1) 五者連携による青少年の健全育成	③青少年の健全育成	青少年の健全育成と地域連帯感の醸成を図った。 ・普代村との協定に基づく自治体間児童交流事業(両町村が交互に受入を行う。今年度は普代村児童が来町した。) 10月14日(日) かつこうグラウンド及び町公民館 10時から15時の日程で野球交流試合と手作り楽器工作を実施。 参加児童 普代オーシャンズ 20名・白沢ベアーズ 22名 午前の部：野球交流で「コールドなし」の試合を行った。 午後の部：「音楽のまち事業・手作り楽器工作教室」講師：ツジヤマガク氏 カズー作成を行った。 ※ツジヤマ講師は普代村で公演実績があり、村内の話が出てきて普代村のことが身近に感じられた。	野球交流は、県内トップクラスのチーム力を体験しいい経験となった。午後の作成したカズーを吹きながら見送るなど、「音楽のまち」にふさわしい交流とできた。 A
		④学校・家庭・地域の連携	学校・家庭・地域が連携して子どもを育てる仕組みづくりを進めた。 ・教育振興運動のほか、各種団体活動を通して得られた情報・課題の共有と課題解決への活動を支援した。 教育振興運動推進委員会、社会教育委員会、女性教育連絡協議会等多様な立場の委員が集う会議において出された意見を共有し、更に議論を深めた。	社会教育関係の各組織における意見集約と課題の共有化により、連携に必要な問題意識の醸成を図った。 A

重点施策	具体的施策	主 要 事務事業	事 業 の 概 要 と 成 果	教育委員会評価	
1 青少年の 健全育成	(2) 青少年 指導者団 体・グルー プ等の育成 支援	①子ども会育 成会連合会 との連携、 支援	子どもたちが、多様な経験の中から生きる力をつけていける活動を進めるほか、子どもたちを見守る子ども会育成会連合会の活動を支援することにより、地域子ども会活動の充実を図った。 ・ 7月7日(土)交流玉入れ選手権大会2018を初開催。町内4小学校33チーム(236名)参加→定員60チーム(充足率55%) 優勝チームは館前A。 ・ 平成30年7月14日(土) わくわくツアー(八幡平トレッキング) 参加者24名→定員30名(充足率80%) バスに酔う子もなく、元気にトレッキングができた。リピーターが多い。 ・ 8月8日(水) わたまるキッズ!歴史探検隊(文化財係との共催) 11名参加→定員25名(充足率44%) 全小学生対象で、町内の歴史を学ぶため、近隣の市町村の歴史と併せて学習し、ふりかえりの時間をとり記録に残すことまでを実施した。 ・ 9月15日(土)～16日(日) 子ども会リーダー研修会(1泊2日宿泊研修) 町内小学5年生66人(男子30人女子36人)を対象に次期リーダーとしての心構えとコミュニケーションのスキルアップを目的に実施。今年度の自主研修は防災サポーターの指導のもと、紙でつくるコップやスリッパ、段ボールトイレなどやロープワークについて学んだ。 ・ 10月6日(土) 教振・子育連合同研修会 187人参加 教振も子ども会も地域のつながりが重要という観点から、紫波町在住の講師を招き地域づくりの実践例について聴講。 ・ 1月12日(土) 親子創作活動実施 参加者4コース41組78名 手芸:10組19名 →定員30名(充足率63%) 木製ブロック:7組12名→定員30名(充足率40%) ハーバリウム:15組28名 →定員20名(充足率140%) 陶芸:9組19名→定員20名(充足率95%) 「親子」で「創作」をキーワードに、親子が楽しく考えたりしながら作る事業を実施した。	今年度から、子ども会交流事業を「ドッジボール」から「玉入れ」に変更し参加の拡大を図った結果、4小学校全てから参加があったほか、参加人数も増加した。初めての競技のため大会運営に不手際があり、次年度への課題となった。また、これを機に地域への協力の呼びかけも行い、地域が子ども会活動へ関わるきっかけとすることができた。 なお、今年度は青少年指導者団体の活動休止を受け、事業内容・支援体制を変更して実施しており、次年度への課題となった。	A
		②青少年健全 育成町民会 議との連 携、支援	地域ぐるみ型組織である青少年健全育成町民会議の活動を支援することにより、青少年の健全育成を図った。 ・ 青少年健全育成町民会議による論文・作文コンクール、保育園等における親子劇場、青少年の健全育成に尽力している方の山ゆり賞表彰、青少年育成特別事業影絵公演会の開催等を通じた青少年の健全育成活動の支援 ・ 7月2日(月) いのちの先生派遣事業「命の授業」(矢巾北中学校) ・ 8月31日(金) 青少年育成特別事業「音楽影絵劇」(町内小学1～3年生対象) 第1部:ピアノ・バイオリン・チェロで送る「小さな楽しいコンサート」&影絵教室 第2部:音楽影絵劇「100万回生きたねこ」 ・ 2月23日(土) 青少年の論文・作文表彰式開催(最優秀賞4名、優秀賞17名を表彰) ・ 5月9日(木) 山ゆり賞表彰式開催予定(5名表彰)	今年度は町内4小学校と連携し、授業の一環として芸術鑑賞会を開催した。普段触れる機会の少ない芸術に触れることで青少年の感受性を育み芸術への関心を高めることができた。	A
		③青少年指導 者協議会と の連携、支 援	青少年指導者協議会の活動を支援し連携することにより、青少年の健全育成を図った。 ・ 指導協の組織体制の再考及び人材バンク設置の可能性の検討した。	今年度は会員の脱退が相次ぎ、実質的に活動休止状態となった。今後は、子ども会活動サポーターといった位置づけでの活動を継続して検討している。	C

重点施策	具体的施策	主 要 事務事業	事 業 の 概 要 と 成 果	教育委員会評価
2 生涯学習 の充実	(1) 学習機 会の拡充と 家庭や地域 の教育力向 上	①学習機会の 充実	青少年・成人・高齢者教育の視点から、各世代の町民の課題やニーズに対応した学習機会の充実と啓発に努めた。 ○岩手医科大学との連携によるセカンドアカデミーin岩手医大2018を開設した。(会場:矢巾キャンパス) 受講者27名、うち4回以上受講した修了生26名→定員25名(充足率108%) <日程・講師> 第1回:9月19日(水) 小山薫先生(人間科学科体育学分野) 第2回:9月26日(水) 関山悦子・佐藤菊代先生(図書館事務室) 第3回:10月3日(水) 相澤文恵先生(人間科学科心理学・行動科学分野) 第4回:10月10日(水) 駒野宏人先生(薬学部神経科学講座) 第5回:10月17日(水) 〃 先生(〃) 第6回:10月24日(水) 若井 淳 先生(医歯薬総合研究所実験動物医学研究部門) ○町民提案型生涯学習講座の開設 講座1:働く人のコミュニケーション講座～はじめてのアンガーマネジメント～ 参加者13名→定員15名(充足率86%) 講師:菊池規子氏(アンガーマネジメントコンサルタント・キャリアコンサルタント) 日時:11月12日(月) 午後6時30分から8時 講座2:人生100年時代のライフプランセミナー 参加者12名→定員30名(充足率40%) 第1部 明日へ残したい想い～エンディングノートの書き方 講師:昆浩司氏(日本ファイナンシャル・プランナーズ協会岩手支部) 日時:1月17日(木) 午後6時30分から8時 第2部 子育て世代のお金のセミナー 参加者4名→定員30名(充足率13%) 講師:戸田節子(日本ファイナンシャル・プランナーズ協会岩手支部) 日時:2月5、19日(火) 午前10時30分から正午 第1回「いくらかかるの?教育費」 第2回「幼児期から始めるお金の教育」 講座3:障がい者の就労支援について学ぼう 参加者18名→定員20名(充足率90%) 講師:佐藤章夫氏(あさあけの園 施設長) 日時:平成31年3月16日(土) 午前10時から正午 ○青少年、成人、高齢者等対象の年代・ニーズに合わせた各種講座等の開設 ・高齢者を対象としたパソコン教室の開設 ※②学習活動の支援参照 ・成人式の開催:今年度は地域おこし協力隊と連携し「ふるさと やはば」が意識できる写真スポットを設置した。 成人者数321名 うち出席者数245名→出席率76% ・放課後子ども教室の開催:矢巾東小学校4～6年生を対象に、月に2回、外部講師を招き、体験型とクラブ活動型の教室を実施した。※学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業(国庫補助事業) 4月「サッカー教室」「仲良しレク」 参加者53名 5月「目指せ気象予報士!」「災害医療を学ぼう」 参加者62名 6月「ビーガンデコレーションケーキづくり」「秘密基地づくり」 参加者52名 7月「下水道探検隊!ミクロの世界へ」「森のウォークラリー」 参加者79名 8月「カッティングボードで作るキーフック」「冒険キッズ探検隊」 参加者68名 9月「ひつつみづくり」「テニス教室」 参加者46名 10月「バスケットボール教室」「ハロウィンフラワーアレンジメント」 参加者51名 11月「卓球教室」「サッカー教室」(低学年と合同)「キンボール」 参加者98名 12月「マジック教室」「クリスマスキャンドルづくり」クリスマス会「マジック発表会」 参加者75名 1月「冬の森の探検隊」「カフェスツールづくり」「冬のテニス教室」 参加者64名 2月「写真教室」 参加者20名 合計668名 ※評価検証委員会の開催:第1回 6月20日、第2回 3月6日 参加児童及び保護者等に対しアンケートを実施(5・12・2月の3回)し、その結果を基に事業の内容、効果について分析及び評価を実施した。	事情による欠席者以外の受講生が終了証交付対象となる意識の高さが見られたが、90分の講座時間が長いとの意見が初めて出されたことから、次年度の講座時間・配分について医大と協議し参加者がより充実した受講となるよう検討したい。 町民提案型講座は、多様な価値観に基づく講座開設が可能である反面、テーマによっては参加者が少数となってしまうことから、社会情勢を適切に判断しテーマと定員の設定を慎重に検討して、より多くの方に参加いただけるものとしていく必要がある。③については施設の協力も得られたことから、内容の充実した講座とできた。 新成人、高齢者を対象とした学習機会の提供については、現状を把握し各年代に合わせた内容とすることで効果が期待できる事業を行うことができた。 今年度から始めた放課後子ども教室に係るアンケート結果について、保護者・児童とも一定の満足は得られたが、地元講師による地域との連携感に対する反応は鈍く感じられた。また、評価委員会において、地域人材の発掘・活用と継続した取り組みに期待する意見が出され今後の課題となった。

A

重点施策	具体的施策	主 要 事務事業	事 業 の 概 要 と 成 果	教育委員会評価
2 生涯学習 の充実	(1) 学習機 会の拡充と 家庭や地域 の教育力向 上	②学習活動の 支援	講師派遣や各種広報媒体・インターネット等を活用した学習情報の提供等を通じて、町民の学習活動を支援した。 ・高齢者を対象としたパソコン教室等各種講座の開設（各コースとも定員14名） 11月10日（土） エクセル編 参加者14名（充足率100%） 11月24日（土） インターネット編 参加者7名（充足率50%） 12月1日（土） タブレット・スマートフォン操作編 参加者6名（充足率43%） ・町ホームページ・SNS等を活用した積極的な学習情報を発信した。 ・お話会の実施：不来方高校演劇部による幼児対象の手あそび・絵本の読み聞かせ・ダンスなどの活動を支援。 第1回：7月14日（土）参加者28人 第2回：3月26日（火）参加者106人 ※盛岡南高校放送・演劇部が賛助出演した。	メディア普及の現状からパソコン教室の開催内容をインターネット中心のものとしたが、ネット環境は理解の上で使用されているためか参加数は伸びなかった。この現状も踏まえ、情報発信にはインターネットを活用した。 お話し会に出演する高校生に広がり生まれ、園児と高校生双方に対し有意義な事業となった。
		③団体等の育 成・支援	指導者や各種団体・グループ等の活動の活性化をすることで相互のネットワークづくりを推進し、育成支援を図った。 ○連合婦人会、女性教育連絡協議会等の地域を基盤とした団体の活動を支援し、人づくりによる地域貢献、活性化を促進した。 ・管内婦人団体代表者会議：5月24日（火）葛巻町平庭高原体験学習館「森のこだま館」 参加者：1名（女連協会長） ・管内婦人団体リーダー研修会：7月5日（木）葛巻町くずまき高原牧場「プラトール」 参加者：8名（女連協会員） ・第40回歳末助け合い演芸会：12月9日（日）来場者684名→連合婦人会6支部のほか、賛助出演団体やゲストを含め13団体が出演。チケット売上げから、105,000円を町社会福祉協議会へ寄附した。 ・他団体、組織との情報共有による連携促進 女性のつどい：女性教育連絡協議会主催 2月9日（土）81名参加→今年度は2部構成とし、始めに白沢神楽保存会による郷土芸能上演を行い、引き続き「しずくしい軽トラ市」に係るパネルディスカッションを開催した。	矢町連合婦人会は支部の新規開設があったほか、町主催諸会議への参画、歳末助け合い演芸会、成人式・敬老会への協力等、積極的に社会貢献している。 女性教育連絡協議会は、構成6団体が問題意識を共有し各々の特色を活かした情報を発信し合い、地域を動かす起点となり地域貢献を模索する前向きな活動が展開された。
	(2) 地域づ くり型生涯 学習の推進	①コミュニ ティ意識の 醸成	地域的課題の解決に向けた学習プログラムの開発や学習実践活動を支援する。 ・地域における課題解決のための話し合い（ワークショップ等）の支援 出前講座の一環として、福祉・子ども課と連携した地域福祉勉強会を開催。自治会単位で自分の地域の現状を把握し、課題を見つけるための話し合いを行った。2地区とも小学生から高齢者まで、幅広い世代が集まり意見交換をした。 12月2日（日） 南矢幅3区 参加者12名 12月16日（日） 広宮沢1区 参加者28名	地域を把握することで課題を発見し共有する作業を実施し、「解決への方策も検討したい」との声が聞かれるなど、地域づくりに対する当事者意識を啓発できた。
		②地域づくり への支援	町当局や自治公民館等と連携しながら、学習の成果がまちづくりに生かされる仕組みづくりに努めた。 ・まちづくり出前講座の利用促進：申請受付件数 22件→昨年比200%→100%増 利用団体は自治会関係が最も多く、テーマは教育関係（生涯・障がい者スポーツ）が最も多かった。	講座利用者は、単発で終わらせず講座で得たものを何かに役立てようという前向きな姿勢が見られ、有意義なものとなった。
		③ボランティ ア活動の振 興	生涯学習としてのボランティア活動の振興に努めた。 ・ジュニアリーダーボランティアの育成：組織への参加登録はあるが、実際の活動の場に参加できない生徒が多い傾向は変わらず、学校での部活動とのバランス等が課題となっている。 ・学校と連携した課外におけるボランティア活動の機会の充実：児童生徒のボランティア活動について、「学校」と「地域」における捉え方に違いがあることは把握できたが、共通認識化には至らなかった。	児童生徒の「地域の一員」という意識醸成のため、ボランティア活動に対し地域・学校双方に理解を働きかける必要がある。

重点施策	具体的施策	主 要 事務事業	事 業 の 概 要 と 成 果	教育委員会評価
2 生涯学習 の充実	(3) 公民館 活動の振興	①学習機会の 提供	幅広いニーズに応じた学習機会の提供に努めた。 - 各種講座の開設（夏休み工作、リクエスト講座、料理教室） 現在、公民館を利用している方のほか、若い世代（30代・40代）が来館するきっかけになるような講座に取り組んだ。 4月21日 スイーツ教室「ふんわりブッセ作り」開催 参加者16名→定員16名（充足率100%） 5月24日 夕暮れ時の映画会開催「カサブランカ」 参加者29名 6月23日 ラジオ番組が出来るまで開催 参加者9名 7月20日 ビール大学開催 参加者9名 8月 2日 夏休み工作教室開催 なんちゃってハーバリウム参加者24名→定員20名（充足率120%） 笑い文字教室 参加者8名→定員20名（充足率40%） 8月 4日 ものづくり教室開催 参加者22名→定員30名（充足率73%） 9月28日 星空観察会開催（公民館・図書センター合同イベント）参加者親子15組30名→定員15組30名（充足率100%） 10月30日 夕暮れ時の映画会開催「海よりもまだ深く」参加者44名 11月11日 歴史講座開催「元禄期の盛岡藩政」 参加者 67名 3月24日 歴史講座開催「岩手の災害と歴史」 参加者27名 3月27日 春休みサイエンスショー 参加者68名 - 自治公民館を会場にしての自主事業の開催 8月24日 矢巾1区自治公民館 日本酒講座 参加者28名 11月16日 新田公民館 初心者ワイン講座 参加者20名→定員20名（充足率100%） - 高齢者大学（第53回）の開設：今年度学園生数527名 6月6日開講式 第1回講座 矢巾町のまちづくりの現状について 矢巾町長 高橋昌造 参加者363名→出席率69% 7月4日第2回講座 特殊詐欺に遭わないために 紫波警察署生活安全課長 岡市善寿 岩手県警察本部音楽隊ふれあいコンサート 参加者347名→出席率66% 8月1日第3回講座 津軽三味線演奏 藤原 翼 岩手県立不來方高等学校 音楽部 参加者325名→出席率62% 9月5日第4回講座 皆さんで歌いましょう ソプラノ歌手田中美沙季 ピアノ井上彩花 サラリーマン八重樫真 人生を旅しています 岩手県北自動車株式会社 八重樫 真 参加者300名→出席率57% 10月3日第5回講座 ステージ発表会 23演目 62名出演 参加者363名→出席率69% 11月7日第6回講座 映画鑑賞「お茶漬けの味」参加者262名→出席率50% 12月5日閉講式・第7回講座 「みチャオ!きいチャオ!裏話」IBC岩手放送アナウンサー神山浩樹 参加者349名→出席率66% 謝恩会参加者189名→出席率36%	幅広い世代が学習できるような多種多様な講座を開催することができ、どの講座も参加者から好評であった。特に星空観察やサイエンスショーなど親子で楽しめる講座は参加者も多く、親子のふれあいの一助になることができた。 青松学園大学では、事務局ではなく運営委員会が主導となり講座を企画し意義のあるものとなった。

A

重点施策	具体的施策	主 要 事務事業	事 業 の 概 要 と 成 果	教育委員会評価	
2 生涯学習 の充実	(3) 公民館 活動の振興	②学習情報の 提供	町民が地域課題に取り組むための拠点施設として、情報提供を行った。 ・学習情報の提供（住民からの学習、講座の問合せに対する的確な回答）	地域で行う講座の内容、講師について適格なアドバイス をすることができた。	A
		③視聴覚教育 の充実	映画会の開催等を中心とした視聴覚教育の充実に努めた。 ・視聴覚教育の充実（夏休み、春休みこども映画会・田園映画祭） 7月27日 夏休み子ども映画会開催：ドナルドダック、金のおの、ミニオンズほか 参加者133名 3月30日 春休み子ども映画会開催：ネコのミヌース 参加者13名 田園映画祭 9月19日 奥様は魔女 参加者37名 9月20日 最強のふたり 参加者53名 9月21日 山下清物語・裸の大將放浪記 参加者64名 9月22日 虹色ほたる 参加者55名 9月23日 八重子のハミング 参加者65名 9月24日 この世界の片隅に 参加者120名	映画祭は、昨年開催した際 のアンケートを参考に邦画、 洋画のバランスよく選定し上 映することができた。ただ、 春休み子ども映画会は実写 だったためか参加者が少な く、内容をもう少し吟味する 必要があった。	B
		④団体等の育 成・支援	町民の学習活動を促進するため、団体やサークル等の育成・支援を図った。 ・自主学習グループの育成援助と作品展示の奨励（息の長い活動につながる支援） 学級開放講座（生涯学習の各種体験講座）の開催 3月2日開催 ・フラワーアレンジメントサークル（ハーバリウム&フラワーアレンジメント）参加者12名 ・矢巾手芸の会（型抜きアート～ひな祭りバージョン）参加者5名 ・キルトサークル（小物入れづくり）参加者13名	30年度は舞踊、お茶、手芸 のサークルが新しく増えた。 今後も自主サークル団体が増 えるよう、また、それらサー クルが息の長い活動になるよ う支援を継続したい。	B
		⑤自治公民館 活動の支援	講師派遣等を通じて活動を支援した。 ・自治公民館長研修の実施：7月12日 平成30年度岩手県公民館大会（会場：釜石市民ホール）参加者16名 ・4地区（徳田地区 煙山地区 不動地区 矢巾東地区）公民館振興大会 徳田地区12月1日、煙山地区12月8日、不動地区11月17日、矢巾東地区11月24日 ・移動公民館事業の実施（1地区7,000円の講師謝礼） 10月13日 流通センター自治公民館：文化講演会 講師 沼田義孝 11月11日 三谷自治公民館：健康体操 講師 佐藤淳子 1月6日 白沢自治公民館：ちゃんこで元気を 講師 菅原晴広 1月19日 新田1区自治公民館：南部藩の内紛と九戸政実 講師 下山 寛	自治公民館長研修は釜石市 で行われた岩手県公民館大会 に参加した。釜石新聞社編集 長川向さんの講演は震災での 正しい情報の発信がいかに大 切か、また、ネット配信では なく紙で情報を読みたい人が 多く入ることなどを学ぶこと ができて有意義な研修となっ た。	A
		⑥研修会の開 催	地域の活動を支えるリーダーの育成のため、各種研修会を開催した。 ・教育振興運動との連携	自治公民館長の積極的な参 加があった。これからも地域 の教育振興と連携ができるよ う努力したい。	A
	(4) 図書セ ンターの充 実	①蔵書の充実	蔵書の充実に努めた。 購入冊数5,594冊 購入金額9,999,985円	時代にあったもの、利用者 のリクエストなどを考えなが ら選書できた。	A

重点施策	具体的施策	主 要 事務事業	事 業 の 概 要 と 成 果	教育委員会評価	
2 生涯学習 の充実	(4) 図書セ ンターの充 実	②各種資料の 収集	各種情報・資料の収集と蓄積に努めた。 蔵書数 56,785冊 (3月31日現在) 電子図書冊数 1,246タイトル 電子図書登録者数 54名 電子図書入館者数 4,914名 電子図書貸出人数 217名 電子図書貸出冊数 417タイトル	電子図書の登録者数が少な かった。今後、PRの仕方な ど工夫をしていく必要があ る。	B
		③図書センタ ー運用の効 率化	図書センタースペースの有効活用を図るため、資料配置や運用方法の効率化に努めた。 ・図書貸出や返却業務の迅速化と効率化 (自動貸出し機の利用促進による待ち時間の短縮)	窓口での混雑を解消するこ とができた。	A
		④本に親しむ 機会の拡充	本の読み聞かせ会など町民が本に親しむ機会の拡充を図った。 ・巡回文庫の実施 (町公民館運営事業) : 町内9か所で行った。 ・指定管理者と連携を図り図書センターの全般的、効果的なPR 子ども向けのお話会の開催 (2回/月) : 4月14日・28日、5月12日・26日、6月9日・23日、7月14日・28日、 8月11日・25日、9月8日・22日、10月13日、11月10日・24日、12月8日・22日、1月12日・26日、2月9日・23日、 3月9日・23日開催 合計参加者220名 大人のための朗読会 : 6月16日・10月28日開催 合計参加者42名 ハロウィンおはなし会 : 10月27日開催 参加者22人 ミニビブリオバトル : 11月4日開催 参加者11名 宮沢賢治童話朗読会 : 12月16日開催 参加者55名 ぐりとぐらカルタ大会 : 1月5日・6日開催 参加者9名 カラフルコースターづくり : 2月3日開催 参加者7名	子ども向けのおはなし会、 大人向けのおはなし会のほか に季節に合った行事を開催 し、本に親しむ機会をつくる ことができた。指定管理者と 連絡を取りながら今後も充実 させていきたい。	B
3 スポーツ ・レクリエ ーション環 境の充実	(1) 生涯ス ポーツの推 進	①生涯スポ ーツ活動の推 進	多くの町民が生涯スポーツやレクリエーションに親しむことができるよう各種スポーツ教室の開催や町民の自主的なス ポーツサークル活動等を支援した。また、国体で取り組んだラジオ体操は、生涯スポーツとして大会後の継続に取り組ん だ。同様に、スポーツチャンバラは町協会が教室を開催し更なる普及に努めた。 ・町民スポーツ大会5種目 男女混合ソフトバレーボール (6月17日、32チーム452名) →前年比1チーム減32名減 男女混合スローソフトボール (7月1日・8日、34チーム657名) →前年比2チーム減47名減 ※大会2日目が降雨中止。 マレットゴルフ (8月26日、36チーム201名) →前年比2チーム減15名減 ペタンク (9月9日、38チーム187名) →前年比チーム増減なし13名減 ※悪天候により中止。 男女混合輪投げ (1月13日、34チーム約419名) →前年比チーム増減なし19名増 ・町民登山 開催日 : 9月2日 (日) 会場 : 姫神山 参加者27名 →前年比4名減 ・町民スポーツ・レクリエーション祭 開催日 : 12月1日 (土) 場所 : 町民総合体育館 参加者140名 →前年比9名減 ・健康体力づくりセミナー 開催時期 : 1~3月、全8回延べ参加者107名 →前年比5名増 ・キンダースポーツプログラム 開催時期 : (1期)5~7月 (2期)10~12月、各6回延べ124名 →参加率69% ・第5回ラジオ体操会 開催日 : 8月5日 (日) 場所 : 矢巾町民総合体育館 参加者130名 →前年比70名減 ・ロードレース大会運営補助 開催日 : 9月30日 (日) 参加者661名 →前年比5名増 ・町スポーツチャンバラ協会運営補助	今年度の町民スポーツ大会 は、2種目が天候による影響 で中止を余儀なくされ今後の 課題となった。昨年と比べ若 干エントリーチーム数に減少 がみられるが、冬期間の種目 及びセミナーに参加者数の伸 びが見られた。 未就学児の基礎運動能力の 向上につながる事業は好評の ため2期制にするなど実施方 法に配慮した。	A

重点施策	具体的施策	主 要 事務事業	事 業 の 概 要 と 成 果	教育委員会評価	
3 スポーツ・レクリエーション環境の充実	(1) 生涯スポーツの推進	①生涯スポーツ活動の推進	○「スポーツのまち やはば」宣言及び矢巾町スポーツシンポジウムの開催：1月19日（土） 来場者約580名 宣言：高橋町長及び町内スポーツ少年団10団 講演：富士大学硬式野球部監督 豊田圭史 氏 パネリスト：コーディネーター 矢巾北中学校長 西郷晃 氏 パネリスト 矢巾町体育協会長 村松正夫 氏、楽々クラブ矢巾会長 工藤眞理子 氏 パラリンピアン バンクーバーパラリンピックアルペンスキー出場 横澤高德 氏 煙山小学校卒業 足立区議会議員 長澤興祐 氏 矢巾北中学校卒業 平成30年度国体ハンドボール競技出場 射守矢成美 氏	国体から取り組んでいるラジオ体操会は参加者の減少が見えるが、スポーツのまちやはば宣言に基づくスポーツ習慣の普及のために有効な手段であることから、更なる普及・底上げを図り継続的に取り組む。スポーツチャンバラは事業連携により更なる普及を図るとともに、協会が継続して活動できるよう支援をしていく。	A
		②トレーニングプログラムの提供	個々の運動能力に合わせたトレーニングプログラムの提供を推進した。 ・町民体育館のトレーニング室の利用促進と施設の適正管理 「春トレ」「秋トレ」キャンペーンの実施により、利用者数が増加した。 利用者数9,832名 前年比4,538名増	マシントレーニングを行うなど、安全で効果的な利用の促進を図った。	A
		③研修会等への参加促進	より良いスポーツ環境の醸成に資するため、スポーツ推進委員等の指導者講習会・研修会への参加促進を図った。 ・紫波町スポーツ推進委員と情報交換を行ったほか、県及び東北エリアでの研修会に参加した。	研修に積極的に参加し、地域における指導者としてのスキルアップが図られた。	A
		④地域を基盤としたスポーツ活動の振興	町民スポーツ大会の充実及び出前講座等を利用した講師派遣等により、地域を基盤としたスポーツ活動やコミュニティスポーツの振興を図った。また、障がい者スポーツの入口としての気づきや正しい知識の周知、種目紹介に取り組んだ。 ・出前講座：生涯スポーツのすすめ（ドッチビー） 期日：6月16日（土） 申請者：徳田小学校3学年PTA 参加者50名 生涯スポーツのすすめ（ラジオ体操） 期日：10月28日（日） 申請者：県バウンドテニス協会 参加者75名 体験！パラスポーツ（シッティングバレーボール） 期日：6月23日（土） 申請者：徳田小4学年PTA 参加者41名 期日：9月25日（火） 申請者：矢巾町議会 参加者20名 体験！パラスポーツ（卓球バレー） 期日：11月4日（日） 申請者：和味自治会 参加者45名 期日：11月5日（月） 申請者：ハートワーカーズ にじの会 参加者27名 期日：12月8日（土） 申請者：紫波矢巾地区スポ推協 参加者19名	スポーツ推進委員が出前講座等による事業に協力体制を取ることにより、事業効果を高めることができた。 また、出前講座による障がい者スポーツを通して地域における多様な価値観の共有を図り、触れる機会を作ることができた。	A
		⑤総合型地域スポーツクラブへの支援	総合型地域スポーツクラブ「楽々クラブ矢巾」への支援を行った。 ・年代を問わず生涯続けられるスポーツ環境づくり 会員数348名→前年比17名減 スポーツ振興くじ(toto)助成事業 10事業実施（卓球・ヨガ・スポーツチャンバラ・グラウンドホッケー・弓道・バドミントン・バウンドテニス・野球・体力測定・ハンドボール・指導者講習） 延べ参加者数1,442名 独自事業 4事業実施（春まつり・秋のウォーキング・吹き矢・楽々スポ活） 延べ参加者数432名 ・スポーツ人口の拡充による町民の交流機会の創出 サークル活動 10団体（エアロビクス・卓球・バウンドテニス・シルバースポーツ・グラウンドゴルフ・ラテンエクササイズ・楽々バドミントン・野球サークル・きらら卓球・矢巾弓道会） 延べ参加者数11,375名 ・活動や運営充実のため、県体育協会が主催する運営研修会に参加。 ○入会金及び会費に係る規約改正を行った。	会員登録数が高齢者及び小学生に偏り、中学生から50歳代までの世代は全会員の12%しかなく、この年代への働きかけが課題となっている。 toto助成事業の終了に伴い、健全経営のため入会金及び会費に係る規約改正について助言を行った。	A

重点施策	具体的施策	主 要 事務事業	事 業 の 概 要 と 成 果	教育委員会評価	
3 スポーツ・レクリエーション環境の充実	(2) 青少年スポーツ活動の推進	①各種教室の開催	子どもの基礎運動能力の向上を目的とした各種教室の開催を推進した。 ・町少年野球大会 7/28 (土) 場所：矢巾町総合グラウンド 参加者数3チーム53名 ・小学生水泳教室 前期：5/7(月)～6/8(金)全10回、後期：6/11(月)～7/13(金)全10回 場所：ラ・フランス温泉館 各期A・Bコース設定、定員各回30名 参加者数延べ751名→(充足率63%) ・柔道教室 (小中) 期間：5/19(土)～12/15(土)毎週土曜日全25回 場所：矢巾町民総合体育館 定員30名 参加者数延べ173名→(充足率23%) ・ジュニアトータルスポーツ教室 (小4～6年生で専門的スポーツ、競技スポーツを学ぶ) 期間：6/2(土)～11/10(土) 期間内の土曜日全12回 場所：矢巾町民総合体育館ほか 定員30名 参加者数延べ327名→(充足率91%) ・キッズ・ベーシックスポーツ教室 (小3以下の小学生で動きの基礎を学ぶ) 第1期：6/2(土)～7/19(木)全12回、第2期：8/23(木)～10/11(木)全12回、第3期：10/13(土)～11/29(木)全12回 場所：矢巾町民総合体育館、ラ・フランス温泉館ほか 定員各期20名 参加者数延べ672名→(充足率93%) ・スキー・スノーボード教室 (小3以上の小学生) 開催日：1/4(金)、1/7(月)、1/9(水)、1/11(金) 場所：岩手高原スノーパーク 定員各回50名 参加者数延べ141名→(充足率70%) ・ソフトテニス教室 (小3以上の小学生) 開催日：10/12(金)～11/20(火)期間内の火・金曜日全10回 場所：矢巾町民総合体育館 定員20名 参加者数延べ216名→(充足率108%)	小学生水泳教室は、南昌グリーンハイツの閉館により会場変更を余儀なくされ、開設以来初めて定員割れとなった。ジュニアトータルスポーツ教室は、新種目としてボルダリングを取り入れるなど参加児童からも好評だった。 将来的な競技人口の増加と資質の更なる向上につなげるため、小中学生の基礎運動能力が向上に努めた。	A
		②スポーツ少年団活動の推進	スポーツ少年団活動を通じ、ジュニア段階からの基礎運動能力と礼儀等コミュニケーションの資質の向上を図った。 ・「スポーツのまち やはば」宣言セレモニーにおいて、スポーツ少年団10団が宣言を行った。 ・柔道教室は、スポーツ少年団の育成が進み受け皿が確保できたことから今年度で終了することとした。	運動のみならず社会貢献活動も行うなど、ジュニアの社会的資質向上が図られた。	A
		③いわてスーパーキッズ発掘育成事業への参加	保護者に対する意識啓発も含めた「いわてスーパーキッズ発掘育成事業」への参加、チャレンジを促し、未来の国体選手・オリンピック選手の輩出につなげるとともに、児童生徒全体の体力向上に結び付くよう推進した。 ・第12期生 (平成30年度) 男子1名 (4年生) ・教育振興運動研修会に際し西郷矢巾北中学校長が、子供の可能性と保護者の関わり方について、子供が成長するための環境の大切さを講演し好評を得た。	今年度の認定者は1名だった。子供の可能性を広げるための保護者の関わり方について更に啓発したい。	A
	(3) 競技スポーツの推進	①各種大会の開催	種目別競技団体と連携した各種大会の開催を推進した。 ・各競技団体と連携した大会を19種目行った。 参加者数延べ1,187名	各種目団体の競技力向上と、生涯スポーツの普及を図った。	A
		②競技力の向上	各種競技大会や研修会への選手派遣を推進し、競技力向上に努めた。 ・県民体21競技出場 (冬季含む) 前年比2種目増 団体の部 優勝0チーム→前年比2チーム減 準優勝4チーム→前年比増減なし 第3位6チーム→前年比増減なし 個人の部 優勝3名→前年比増減なし 準優勝5名→前年比2名減 第3位4名→前年比1名減	団体・個人とも3位以内入賞は減少しており、競技力の向上が課題となっている。	B
		③団体の組織強化	各種目別団体の組織強化を支援した。 ・スポーツ振興団体補助事業 10団体→前年比2団体増	選抜チームやスポーツ少年団で全国大会出場があり、競技力の向上が図られた。	A
	(4) スポーツ施設の整備及び維持管理	①体育施設の適切な維持管理	計画的な維持補修により、安全安心な施設の提供に努めた。 ・町民総合体育館屋根改修工事を実施した。(柔剣道場屋根及び玄関屋根周辺) ・各施設の老朽箇所の洗い出しを行った。 ・利用者の利便と安全に配慮した適切な施設の維持管理に努めた。 ・体育館トレーニング室にエアコンを設置し、利用者のスポーツ環境の改善を図った。	長年懸案となっていた総合体育館屋根の改修が完了したほか、トレーニング室のエアコン設置により快適な利用環境を確保できた。	A
		②スポーツ設備の充実	スポーツ用具等の定期的な更新により、利用者サービスの向上を図る。 ・toto助成導入によるトレーニングマシン3台を更新。	今後も定期的な設備更新を図りながら維持管理を進める。	A

重点施策	具体的施策	主 要 事務事業	事 業 の 概 要 と 成 果	教育委員会評価	
4 文化・芸術活動の推進	(1) 文化芸術活動の推進	①芸術文化団体の育成	芸術文化協会を中心に芸術文化団体の育成、支援を行った。 ○文化会館などの文化施設を活用した芸術文化活動の促進を図り、町民自らが積極的に参加し、創造する場と芸術文化に接する機会を提供した。 ・移動研修の開催：9月18日（火）24名参加 青森県五所川原「立佞武多の館」「斜陽館」「津軽三味線会館」見学 ・芸術祭の開催 展示部門（10月20～21日：町秋まつりと同日開催、来場者延べ2,522名）→前年比182名減 舞台部門 舞踊（10月14日）入場者340名→前年比143名増 邦楽ダンス（10月28日）入場者150名→前年比31名増 器楽合唱（11月4日）入場者650名→前年比60名増 ・各種芸術文化団体へ支援を行った。 ・芸術文化振興基金運営委員会事業では書道展を実施した（2月15～17日） 来場者863名→前年比273名増 ○町民が芸術作品を鑑賞したり芸術文化活動に参加できる機会や、自主的かつ主体的な町民の活動を支援した。 ・田園ホール自主事業の充実 ・住民参加型事業推進 町内在住講師による「美文字教室」「デッサン教室」を実施し、好評を得た。	芸術祭舞台3部門において音楽のまち事業と連携してゲストを招聘し、観覧者・参加者共に新たな刺激を与え今後の活動への布石とした。 また、芸術祭展示部門の際の体験から講座につなげることができ、今後の継続した活動が期待される。	A
		②情報収集と発信	県内の広域ネットワークを活用し、類似施設の利用状況・事業内容など幅広い情報収集と情報発信を図った。	県内の同規模施設と連携した事業の招聘など効率的な事業運営に努めた。	A
		③芸術祭の参加促進	展示内容の体験コーナーの設置や参加者同士が協調した合同展示を行うなど、芸術祭の展示方法を工夫し参加者と観覧者の増加促進を図った。 ・日本画体験教室 10月20日（土）10時～ 講師 花立ゆかり氏（岩手県日本画協会）参加者30名 書道合評会 10月21日（日）10時～ 講師 八木橋溪雪氏（岩手書道協会）参加者10名 ・お茶会 10月21日（日）10時～ 小堀遠州流「松籟会」参加者100名強 ・ふれあいアートショップ 10月20日（土） 陶芸サークル、ホームクラブトコタン教室 10月21日（日） フラワーアレンジメントサークル 10月20、21日 ヨーロピアンフラワーデザインサークル	展示作品を実際に作ることができる体験コーナーを開設することで、見るだけではなく参加するという相乗効果により新たな価値が見いだされ、出展者・来場者双方から好評だった。	A
		④鑑賞事業等の拡充	町民ニーズの把握を進めるとともに、田園ホール催事については入場料金設定を工夫するなど、芸術文化活動や鑑賞事業等に触れやすい環境づくりに取り組み、芸術文化活動への参加者の拡充に努めた。	田園ホール催事のほか芸術祭各部門や書道展など、機会をとらえアンケート調査を実施しニーズの把握に努めた。	A
		⑤音楽のまちづくり事業	「音楽のまち やはば宣言」に基づき、町民が幅広いジャンルの音楽に触れ音を楽しめる機会の創出に取り組んだ。 ・芸術祭舞台部門へのゲスト出演者の差込 舞踊部門：盛岡芸妓、邦楽・ダンス部門：エルヒラソル（フラメンコ）、器楽・合唱部門：三神樹美（ピアノソロ） ・京都大学音楽部交響楽団演奏旅行の招致と町内音楽団体との共演 8月26日（日）午後2時開演 チケット配付数760枚 当日入場者数518名→配付数に対する入場率68% ※楽団員111名来町、矢巾温泉及びホームステイ受入家庭27軒（ステイ団員75名（男性21名・女性54名））で対応。 ・小学生を対象とした、各小学校区で「手作り楽器で音を楽しむ工作教室」の実施 各会場定員30名 講師：ウクレレシンガー ツジヤマガク氏（奥州市在住） 7月25日：午前：矢巾東小 参加者12名→充足率40% 午後：煙山小 参加者21名→充足率70% 8月1日：午前：徳田小 参加者41名→充足率137% 午後：不動小 参加者9名→充足率30% ・普代村児童交流事業に「手作り楽器で音を楽しむ工作教室」を差し込み実施した。 講師：ウクレレシンガー ツジヤマガク氏 ・熊谷育美ピアノ弾き語りコンサート～193ism～の開催 2月11日（月・祝）午後3時開演 チケット配付数526枚 当日入場者数326名→配付数に対する入場率62%	音楽のまち宣言をしたことから京都大学交響楽団の招聘と町内音楽団体との共演につながった。また、ホームステイ受け入れを実施したことにより、団員・受入家庭双方に対する補償や対応など今後の課題と可能性を見つけることができた。 夏休みの手作り楽器工作教室は各小学校で実施したが、午後会場となった小学校では全体的な暑さ対策が必要となり今後への課題となった。	A

重点施策	具体的施策	主 要 事務事業	事 業 の 概 要 と 成 果	教育委員会評価	
4 文化・芸術活動の推進	(2) 文化施設の活用	①運営委員会の活用	文化会館の事業効果を高めるため実施事業の内容・成果を検証し、運営委員の助言を得ながら、より親しまれる施設となるよう事業運営した。 ・文化会館運営委員会の開催（3月5日（火）委員7名出席）	県内同規模施設と比較すると高い稼働率だが、委員の助言を参考に更なる利用増を図っていく。	A
		②芸術文化活動の支援	団体、サークル、鑑賞活動等、きっかけづくりを通じた自主的かつ主体的な町民の芸術文化活動を支援した。 ・町民劇場や町民オーケストラを目指したサークル運営の支援 田園室内合奏団 6月17日（日）開催 来場者数253名→前年比39名減 町民劇場2月9～10日（土・日）開催 来場者延べ591名→前年比10名減	文化会館の開館により発足した団体であり、更なる技術の向上と、広報・催事内容の工夫を行う必要がある。	B
		③住民参加型事業の推進	文化会館の良さを生かした町民参加型事業を推進し、町民により親しまれ利用される施設運営をした。 ・田園ホール自主事業の充実 ※田園ホール稼働率78.4%→前年比1.9%減 ピアノスペシャルキャンペーン第1弾 4月3日～5月27日 利用者延べ264名→前年比51名増 宝塚歌劇仙台公演バスツアー 4月7日 参加者25名→定員45名（充足率56%） 田園ホールアートフェスタ 4月28日～5月13日 来場者延べ803名→前年比126名減 田園室内合奏団定期演奏会 6月17日 来場者214名→定員808名（充足率26%） バックステージツアー 7月28日 参加者22名→定員20名（充足率110%） 松竹特別公演 9月2日 来場者310名→定員784名（充足率40%） 小菅優ピアノリサイタル 9月9日 来場者227名→定員808名（充足率28%） ピアノスペシャルキャンペーン第2弾 9月11日～10月31日 利用者延べ62名→前年比100名減 伊奈かつぺい2018トークライブinやはば 9月22日 来場者386名→定員808名（充足率48%） 秋まつりロビーコンサート 10月20・21日 来場者延べ614名→前年比45名増 HY STORY TOUR 11月17日 来場者772名→定員772名（充足率100%） 岡林信康デビュー50周年記念コンサート 11月23日 来場者465名→定員760名（充足率61%） 親子のためのクリスマスコンサート 12月16日 来場者874名→定員808名（充足率108%） 田園ホール混声合唱団定期演奏会 12月23日 来場者311名→定員808名（充足率39%） 田園ホール軽音楽祭 1月27日 来場者86名→定員796名（充足率11%） 矢巾町民劇場公演 2/9・10日 来場者591名→定員1,544名（充足率38%） 田園寄席 3月3日 来場者264名→定員808名（充足率33%）	稼働率78.4%という、県内同規模の施設と比べ高い率を維持しており、活用が図られていると評価される。特に、昨年に引き続き今年度も満席となった事業が実施されるなど、良好で確実な事業選定となった。 参加型事業及び育成型事業として、本町の芸術文化を担う田園室内合奏団、田園ホール混声合唱団、町民劇場に対し支援を行ったが、各団体への参加者の増員、技術向上等は引き続き課題である。軽音楽祭は参加希望が増えるなど徐々に認知されており、多様な『音楽』の解釈を尊重し偏りの無い幅広い層への働きかけを継続していきたい。	A
	(3) 文化施設の整備及び維持管理	①文化施設の適切な維持管理	計画的な維持補修により、安全安心な施設の提供に努めた。 ・各施設の老朽箇所等の洗い出し ・利用者の利便と安全に配慮した適切な施設の維持管理 矢巾町公民館・文化会館外壁等改修工事設計監理業務委託（4月25日～令和2年2月28日） 矢巾町公民館・文化会館外壁等改修工事（12月5日～令和元年12月27日）	施設の外壁タイル剥落を防止するため、詳細な設計の後に改修工事を行うこととし、二年度にわたる大規模改修に着手した。	A
5 文化財の保護と活用	(1) 文化財の保護と啓発	①文化財の保存	文化財の適正な保護管理を行った。 ・出土品の適正な管理と活用（歴史民俗資料館での展示活動）	出土品の実物展示に強い要望が寄せられることから、展示環境を整える必要性及び実現性を検討する。	B
		②開発行為に伴う発掘調査	開発行為との円滑な調整に努め、試掘調査や本調査を迅速に行った。 ・開発行為に対応した発掘調査の実施（周知遺跡の逐次試掘調査）：試掘調査5件実施	当町は住宅建築が増加傾向にあり、適切な指導を行い確実な調査を行っていく。	A

重点施策	具体的施策	主 要 事 務 事 業	事 業 の 概 要 と 成 果	教育委員会評価
5 文化財の 保護と活用	(1) 文化財 の保護と啓 発	③指定文化財 の周知・保 存	指定文化財の周知と保存に努めた。 ・町ホームページの更新による周知 ・指定標柱の設置 天然記念物4カ所設置（白沢ハコネウツギ、白沢のイチイ、和味のイチイ、本浄寺の杉）	企画展等の新規情報の周知 に町ホームページを利用した が、施設のホームページはシ ステムが異なるため情報更新 に至らなかった。
		④伝法寺館跡 の保存	伝法寺館跡の保存・管理に努めた。 ・伝法寺館跡管理事業により地元（館前行政区）自治会に管理委託	地元自治会から活用を求め られており、今後の管理・活 用に継続した検討を要する。
		⑤郷土芸能の 後継者育成	有形文化財・無形文化財の保存と継承を図り、特に郷土芸能の後継者育成に努めた。 ・郷土芸能大会の開催：第43回郷土芸能大会 1月20日（日） 出演団体10団体（町内8、町外2）→町内団体前年比増減なし 出演者数219名（町内185名、町外34名）→町内出演者前年比12名増 来場者数約900名→前年比増減なし	町内出演者数が増加したほ か、後継者育成が進められて いる団体が増え、来場者から も好評を得られた。
		⑥文化財の調 査	文化財調査を行い、実態把握に努めた。 ・町指定文化財調査の実施 ・文化財調査委員会の開催：6月28日（木）委員5名出席 町指定無形民俗文化財の指定：北郡山さんと踊保存会の申請を受け、矢巾町文化財保護条例第27条第2項で準用する第21 条第3項の規定により意見を求め、問題なしとの回答から、指定する旨告示した。	新たな町指定無形民俗文化 財が増え、今後の継続した保 存活動が期待されるなど、文 化財保護・保存について啓発 できた。
	(2) 史跡徳 丹城跡の整 備と活用	①実施設計の 策定	実施設計策定につながる第2次整備事業基本設計の調整を行った。 ・徳丹城跡整備活用事業へ向けた環境づくり（徳丹城跡整備活用指導委員会の開催）： 第1回 10月31日（水）委員8名出席、第2回 3月12日（火）委員6名出席	史跡徳丹城跡第2次史跡整 備基本設計（平成19年作成） を現在の社会情勢に合わせた 形にするための検討を行い、 事業を進めることができた。
		②情報の発信	調査と研修を継続し、情報発信に努めた。 ・総括報告書刊行に向けた取組 300部刊行 史跡徳丹城跡調査指導委員会の開催：第1回 5月23日（水）委員3名出席、第2回 10月31日（水）委員4名出席 ・わたまるメール、やはラヂを活用した情報発信	史跡徳丹城跡の情報発信と 整備に対する以前からの期待 感に応えられる、総括報告書 を刊行することができた。
		③活用の促進	地域との連携を深め、活用を促進した。 ・矢巾町徳丹城春まつりの開催 ※第14回矢巾町徳丹城春まつり：平成30年4月28日（土）開催 文化財体験コーナー、史跡めぐりツアー、餅まきなど 来場者数約9,000名（うち資料館来館者975名）→前年比来場者数約2,000名増（うち資料館来館者279名増） ・ボランティアガイド研修会の実施：9月15日（土）胆沢城見学 ガイド4名参加 ・ARコンテンツの実装	第14回春まつりは、天候に 恵まれたため前年より来場 者・入館者が増えた。また、 岩手大学と連携して取り組む AR技術を活用した史跡再現 について、体験コーナーを開 設したことが報道され、史跡 の啓発につなげることができ た。

重点施策	具体的施策	主 要 事務事業	事 業 の 概 要 と 成 果	教育委員会評価	
5 文化財の 保護と活用	(3) 歴史民俗資料館の 充実	①文化財の管理	文化財の適切な保管・管理に努めた。 ・歴史民俗資料館保守管理事業（消防設備点検、昆虫生息調査） ・佐々木家曲家補修工事（南面屋根等補修平成31年2月完成） ・資料館入口看板設置工事 1箇所設置	曲家南面屋根の補修工事を行い、曲家の更なる活用を図るほか、継続して予算を確保し適切な維持管理を行いたい。	A
		②展示内容の整備	展示内容のビジュアル化等、リニューアル整備に努めた。 ・バーチャルリアリティーへの取組（岩大との連携等で実現の可能性を継続検討） ・解説表示等の整備	子供にもわかりやすい展示方法を工夫したほか、将来的な再現に向け最適な手法を検討した。	A
		③学習機会の提供	佐々木家曲家等、展示資料を実際に見たり触れたりできる教材として活用し、町民に学習機会を提供した。 ・企画展の開催：「明治150年展」 9月21日（金）～11月4日（日） 来館者236名 ・子ども会育成会連合会との連携による「わたまるキッズ探検隊」の開催 日時：8月8日（水） 場所：盛岡市志波城古代公園・矢巾町歴史民俗資料館・佐々木家曲家 対象：小学生11名参加→定員25名（充足率44%） 内容：盛岡市志波城古代公園・徳丹城跡公園・矢巾町歴史民俗資料館見学、自由研究課題作成 ・夏休み文化財体験教室「勾玉・土玉アクセサリーづくり」の開催 日時：平成30年7月31日（火） 場所：矢巾町歴史民俗資料館 対象：小学生17名参加→定員20名（充足率85%）	文化財体験教室は参加者が多かったが、子育連共催の企画は参加人数が少なかったことから、長期休業に合わせた事業は開催時期を検討する必要がある。 企画展は、明治という150年前をテーマとしており、平成から新元号へ変わることが話題となっている時期でもあることから好評を得ることができた。	A
		④史跡との一体的な活用	史跡徳丹城跡と一体的な利活用を促進する。 ・地域の活性化につながる歴史民俗資料館・佐々木家曲家の活用	資料館及び曲家を講座開設の会場とするなど、史跡と周辺施設を含めた活用について、地元住民と共に現状や社会情勢等を踏まえた検討を行った。	A